

案 1

第 2 章 まちづくりの将来像～こんな上京区に暮らしたい～

案 1 悠久浪漫が奏でるここち良く支えあうまち**案 2 千年の営み 知恵と文化を活かすまち 上京****案 3 ほんなり上京 とともに織りなす 雅で住みよいまち**

上京区は、日本の伝統と文化が凝縮されたまちです。

平安遷都以来 1200 年以上の歴史において、この地は平安京の中心であった大内裏があった地域であり、室町時代には「花の御所」、安土桃山時代には聚楽第が築かれました。現在でも、京都御所をはじめ、60 以上の社寺があり、多彩で豊富な史跡が数多く存在しています。

また、文学、美術、茶道、西陣織、工芸、芸能、音楽等、様々な芸術や文化が生み出されています。上京が誇る多彩な芸術、文化は、区民の生活に密接に結びついており、今日でも茶会の開催や薪能の鑑賞などが行われています。

さらには、町衆により、今から 140 年前には日本初の公立小学校である番組小学校が誕生しています。当時から学区単位の自治が発達し、今日でも区内の 17 学区それぞれが伝統を受け継ぎ、個性的な自治活動を行っています。

このように、長い歴史に育まれた伝統と文化が今日に至るまで継承されていることが、上京区の特徴と言えます。

一方で、区民の生活のあり様は大きく変化しました。核家族化が進み、少子化、高齢化が予想以上の速さで進んでいます。住まい方も共同住宅居住者が半数以上を占めるようになりました。まちの様子も産業のまちから、居住のまちへと変化しています。このような変化は、区民にとって身近な町内会活動や学区での活動において、新たな課題を生じさせています。

このような変化に柔軟に対応しつつ、新たな魅力を創造していくためには、平安京の頃から、都の中心として綿々と積み重ねられてきた人々の営みに学ぶとともに、平穏で豊かな生活を支える洗練された暮らしの知恵や、楽しみや潤いをもたらす芸能や文化と、それを育んできた町衆の営みから学ぶことがその出発点となると考えます。

そこで、「」を基本テーマとしてこれからの 10 年間、長い歴史の中で培われた知恵や文化を活かしたまちづくりを進めていきます。